# 烏帽子会会報

2023年春号　Vol.74

白衣授与Student Doctor認定式　集合写真(R5.2.3)

- 教授就任挨拶
- 教授退任挨拶
- 第42回烏帽子会総会のご案内

福岡大学医学部同窓会

# 目　　次


・**第 42 回烏帽子会総会へのお誘い** …… 3

・**会長挨拶**
福岡大学医学部の現状と方向性 －創立 50 周年を迎えて …… 小 玉 正 太 3

・**教授就任挨拶**
見立てと癒しの医学～総合診療学講座の誕生に際して～ …… 鍋 島 茂 樹 5
教授就任挨拶 …… 今 泉 聡 6
教授就任挨拶 …… 四 元 房 典 7
教授就任挨拶 …… 吉 田 陽一郎 8

・**教授退任挨拶**
教授退任挨拶 …… 宮 本 新 吾 9

・**学会報告**
一般社団法人中性脂肪学会 第 5 回学術集会 開催のご報告 …… 小 林 邦 彦 10
第 104 回日本消化器内視鏡学会総会を終えて …… 植 木 敏 晴 11
日本解剖学会 第 78 回九州支部学術集会開催のご報告 …… 貴 田 浩 志 12
日本子ども虐待防止学会第 28 回学術集会ふくおか大会
令和 4 年 12 月 10 日（土）～ 11 日（日）開催報告 …… 小 川 厚 13
第 18 回日本小児心身医学会九州沖縄地方会を終えて …… 永 光 信一郎 15

・**研究奨励賞募集要項／在外研修援助金募集要項** …… 16

・**教室紹介**
筑紫病院 循環器内科 …… 河 村 彰 17
筑紫病院 呼吸器内科 …… 石 井 寛 19
福岡大学筑紫病院 外科 令和 5 年度ご挨拶 …… 渡 部 雅 人 20
福岡大学筑紫病院 脳神経外科・脳神経内科・脳卒中センター …… 東 登志夫 21
筑紫病院 病理部・病理診断科のご紹介 …… 二 村 聡 22

・**支部だより**
2022 年「上方回」関西支部便り …… 渡 邉 太 郎 23

・**学生会員支援報告**
M4 白衣授与・Student Doctor 認定式 …… 安 元 佐 和 24
白衣授与・臨床実習に向けて …… 大 山 真 実 24
2022 年度　M1 白衣授与式 …… 安 元 佐 和 25
第 117 回 医師国家試験結果と学位授与式の報告 …… 安 元 佐 和 26

・**訃報**
永山在明先生を偲んで …… 原 賀 勇 壮 27

・**医局長・医長名簿** …… 28

・**教育職員人事** …… 29

・**編集後記** …… 29


同窓会ホームページ共通 ID、パスワード　　ID：eboshikai
パスワード：fukudai1（数字）

ホームページ用二次元バーコード

## 第 42 回烏帽子会総会　開催要領

# 第 42 回烏帽子会総会へのお誘い

主幹事学年：26 回生代表　藤　岡　伸　助（福岡大学　脳神経内科）

新型コロナウィルス感染拡大の影響で、新たな常識が定着するニューノーマル時代になりました。ウェブ会議の普及や遠隔診療など、離れていてもスムーズに対話することができる、より便利な世の中になってきました。しかし面と向かってだからこそ実現できること、味わえる感動があるからこそ、今まで様々な集まりが対面で行われてきたと思います。

長く続いた感染拡大も収束してまいりました。このたび、4 年ぶりに烏帽子会総会を現地開催することにいたしました。今年のテーマは、「再会」です。研究や学道で頑張れた方への表彰や 26 回生 2 人からの講演、そして久々の懇親会の場も設けてさせていただきました。ぜひ多くの方にご参加いただき、再会の喜びを分かち合っていただきたいと思っております。何卒宜しくお願い致します。

**日　時：令和 5 年 7 月 1 日　土曜日**
**会　費：5,000 円**
**場　所：ソラリア西鉄ホテル 8 階**
**福岡市中央区天神 2-2-43　電話（代）092-752-5555**
**総　会：17 時～ 17 時 55 分**
**講演会・懇親会：18 時～ 20 時**
**講師：塩飽洋生先生（26 回生）**
**講師：藤岡伸助先生（26 回生）**
**※ご出席を希望される方は、「maileboshi@gmail.com」のアドレスへ**
**6 月 23 日まで**にお送り下さい。

会長挨拶

# 福岡大学医学部の現状と方向性 - 創立 50 周年を迎えて

烏帽子会 会長　小　玉　正　太（13 回生 福岡大学医学部 再生・移植医学 教授 医学部長）

福岡大学医学部は昭和 47 年、現在の烏帽子地区に福岡大学で 9 番目の学部として設立され、講座主任教授を中心に多くの先達教授と共に発展を成し得てきた。また福岡大学病院は、前進であった香椎の九電病院から、福岡県警パトカーの先導のもと医学部設立の翌年、昭和 48 年に移転が行われている。さらに教学・卒前人間教育に尽力された歴代学部長の理念・方針をはじめ、多くの教授会構成員の意見を反映して、学部生教育は現在大きな変容を遂げている。今後は CBT、OSCE な

ど準国家試験制度の法定化と共に、地域で求められる医師を輩出し続ける福岡大学医学部の社会的意義は大きいと考えられる。さて、令和２年よりCOVID-19 感染症により生活形態は大きな変容を遂げ、医学教育においても多様な対応を余儀なくされた。当学部は九州県内で最も早く臨床実習、対面授業を再開し医学部生の教育対応にあたった。当初、総合大学である本学は各学部での温度差が大きく、学部共学ガバナンスは医学部出身である朔学長から医学部長へ移行を許可いただき、全学的でなく速やかに独自の采配を学部対応で行うことができた。病院検査部では初動が遅れたために、医学部基礎講座から職員が保健所へ出向しPCR 器の設定やサンプリングに対応する教育を受け、医学部内の PCR 器を検査部へ移動し、病院・医学部職員の COVID-19 感染症対策に従事し協力を行った。このような背景があり、医学部生へも発熱時は迅速に検査が実施され、感染症対策を行い実習や対面授業が担保されていた。くわえて、シリアスな現場で自ら感染症対策を施し、濃厚接触者の導線をたどり医療人として診療に参加することこそ、医師になる心得として卒業時到達目標にかなうことと明言し指導にあたった。各講座主任教授らの協力の結果、感染症対策を行った実習や対面授業が継続され、学内ではほぼクラスター発生なく推移した。またこの時得た知見やスキームは更に、文科省公募の感染症人材育成事業の採択にも反映され、教育用 ECMO、人工呼吸器導入をはじめシュミレーション・センターの発足にも繋がった。シュミレーション・センターは学生のみならず若手医師や関連施設医師にセミナーを提供し、更に今後2023年４月福岡県医師会福岡県４大学学部長挨拶依頼原稿は近隣地域への新興再興感染症対策で、啓発やシュミレーション・センターでの実務経験を提供する場として継続性が維持されている。現在福岡大学病院の新本館が建設中であるが、その隣には旧本館の臨床講義棟が移転する多目的棟が建設される。同時に旧本館の教育施設でもあった、シュミレーションセンターが多目的棟に移転する。そのため多目的棟は新館の隣という立地条件に加え、最上階のシュミレーション・センターからストレッチャーをはじめ人工呼吸器やECMOに至るまで、対応エレベーターで移動可能となっている。大講堂には巨大液晶ディスプレイに加え最新の通信機器で整備され、配置された机や椅子は収納可能で広大なフラット・スペースが確保可能となる。医療用配管の設置も加味され、海浜地区で有事の際も残る福岡市西部南部地区の代表的な災害時に対応するDMAT 拠点施設となりえる設定である。福岡大学では大学基準協会より「社会貢献・地域貢献」項目でＳ判定の評価を受けている。これは医学部の施策や対応も加味されてのことである。卒業式では毎年、「在学中は諸君らに厳しい処遇で鬼学部長として接しきたが、明日から病院で同僚の医療人として敬意を表する」と卒業時到達目標を達成した医療人として、学部長は誇りを持って卒業生を送り出している。医学部の、地域社会に貢献する高い倫理観を持つ、実践的医療人を輩出する目標は、福岡大学医学部が設立された 50 年前から変わることはない。

（福岡県医報 May 2023 №.1563. p10 紹介文より。転載確認了解済）

教授就任挨拶

# 見立てと癒しの医学
## ～総合診療学講座の誕生に際して～

福岡大学医学部総合診療学 主任教授　鍋　島　茂　樹（13 回生）

鍋島 茂樹
主任教授　略歴

1990 年　福岡大学医学部 卒業
1990 年　九州大学病院研修医
1992 年　九州大学大学大学院
1996 年　九州大学病院総合診療部 医員
1997 年　国立療養所田川新生病院
1998 年　九州大学病院総合診療部 助教
2002 年　九州大学病院総合診療部 講師
2005 年　福岡大学病院総合診療部 講師
2006 年　福岡大学病院総合診療部 准教授
2015 年　福岡大学病院総合診療部 教授
2023 年　福岡大学医学部総合診療学 教授
現在にいたる

所属学会
日本内科学会
日本感染症学会（評議員）
日本プライマリケア連合学会（福岡県支部長）
日本病院総合診療医学会（理事）
日本東洋医学会（評議員）
和漢医薬学会（評議員）
日本ウイルス学会

専門医等
総合内科専門医、指導医
感染症専門医、指導医
漢方専門医、指導医
プライマリ・ケア認定医

13 回生の鍋島です。2023 年 4 月、福岡大学医学部に「総合診療学」講座が新設され、この度その初代主任教授に選任していただきました。私は、2005 年より福岡大学病院「総合診療部」の部長を続けてきましたが、今回念願の講座化が実現し、今後は診療だけでなく医学教育と研究に対する責任を有することとなり、襟を正す思いです。現在、人口の高齢化と地域包括ケアシステムへの移行に伴い、地域医療は大きな岐路に立っていますが、総合診療はこれからの地域医療に重要な役割を果たすことが期待されています。特定の臓器・疾患専門領域を持たぬ総合診療は、ひろく、様々な疾患に対応しており、救急診療の研鑽も積んでいるため、訪問医療や中小病院における内科診療、あるいは大きな病院のホスピタリストに適しているといえるでしょう。総合診療学講座は、こういった地域医療の現場に出ていく、すぐれた人材の育成を第一の任務と考えています。

総合診療学を考える上で最も重要となる屋台骨は「内科診断学」です。きちんとした診断無くして治療はできません。私たちの講座では、教育・研究・診療すべての側面において内科診断学の伝統を継承、発展させることが重要なテーマです。診断困難症例や複合疾患など、日常診療でも診断力が試される機会が多くあります。特に私たちの領域では、問診や身体診察、エコーや心電図などの基本的な診断学に精通することが必要と考えています。救急医学、こと二次救急医療に関しては、今後とも積極的に関与していくつもりです。救急外来（ER）は内科診断学が最も試される現場であると考えています。さらに、漢方医学は総合診療を実践する上で、なくてはならないツールです。漢方医学も内科診断学の一つの領域と考え、エビデンスに基づいた漢方薬の使用を実践していくつもりです。また、今後とも漢方薬と感染症に関して基礎研究と臨床研究を継続していく所存です。これらのことを鑑みまして、私たちの講座の理念を「見立てと癒しの医学」としました。

総合診療学講座は、「見立て」とそれに続く「癒し」を真摯に実行できる医師を教育することで、福岡大学医学部に貢献できればと思っています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

# 教授就任挨拶

福岡大学医学部 生命医療倫理学 主任教授　今　泉　　聡　(25 回生)

今　泉　　聡
主任教授 略歴

昭和 49 年(1974 年)10 月 5 日生

平成 5 年
福岡県立修猷館高等学校卒業

平成 8 年
芝浦工業大学工学部電子工学科中退

平成 14 年
福岡大学医学部医学科卒業

平成 20 年
福岡大学大学院医学研究科
病態生化学系専攻博士課程修了

平成 20 年
米国 University of California,
Los Angeles（UCLA）留学

平成 23 年
福岡大学医学部寄附研究連携
分子循環器病治療学講座助教

平成 24 年
福岡大学医学部心臓・血管内科学
助教

平成 25 年
福岡大学病院循環器内科講師

平成 27 年
福岡大学医学部医学系研究・生命
医療倫理部門講師

平成 28 年
福岡大学医学部医学系研究・生命
医療倫理部門准教授

令和 5 年
福岡大学医学部　生命医療倫理学
教授

令和５年４月１日付けで福岡大学医学部生命医療倫理学講座の主任教授を拝命いたしました今泉聡(いまいずみ さとし)と申します。私は平成 14 年に福岡大学医学部を卒業後、朔啓二郎教授の主宰される心臓・血管内科学に入局致しました。大学院では三浦伸一郎教授のご指導のもと、主に動脈硬化に関する研究に従事致しました。その後、米国 UCLA へ留学させて頂き、帰国後も循環器診療と基礎研究・臨床研究に従事させて頂いておりましたが、平成 27 年に生命医療倫理部門が新設されました時より、生命倫理の立場から研究、医療への貢献を目指すこととなりました。このたび、烏帽子会会長 小玉正太医学部長や皆様のあたたかいご支援のもと、新たに生命医療倫理学講座として出発することとなりました。

倫理という言葉は「人と人がかかわりあう場でのふさわしいふるまい方」という意味を含んでおります。医療においては、高度な医療の提供にはチーム医療や多職種協働が不可欠だと言われるようになってきました。教育では、令和４年度に改定されました医学教育モデル・コア・カリキュラムの理念にありますように、患者・家族や医療者など、医療に関わるすべての人々と協働することができるような「多様な場や人をつなぐ能力」の教育が重要視されるようになりました。このチーム医療や多職種協働を実践する力、多様な場や人をつなぐ能力とは、まさに倫理的な能力ということができると思います。今後は、AI が発達し個別化・専門分化する医療の中で、誠実や共感、多面的思考のような倫理的な能力がますます重要になってきていると思います。そのような流れの中、生命医療倫理学は研究の領域だけにとどまらず、教育・医療を含む全ての領域において重要性を増していると思っております。生命医療倫理の実践には、すべの職種や診療科、研究者の方々との協働が必要不可欠であり、今後も多くの方々と連携をさせて頂きながら、講座を運営してまいりたいと思っております。すべての方々への尊敬の念を忘れず、福岡大学の発展に少しでも貢献できますよう、精進していく所存です。これからもご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

# 教授就任挨拶

福岡大学医学部 産科婦人科学 主任教授　四　元　房　典（特別会員）

四　元　房　典
主任教授 略歴

1976 年 10 月 14 日生（満 46 歳）

所属・職種：福岡大学医学部産科婦人科学講座・主任教授
福岡大学病院・診療部長

学　位：博士（医学）（福岡大学）　2008年10月1日　修了

学　歴：1995 年 03 月　宮崎県立宮崎西高等学校　卒業
1997 年 04 月　九州大学医学部医学科　入学
2003 年 03 月　九州大学医学部医学科　卒業
2005 年 04 月　福岡大学大学院医学研究科博士課程入学
2008 年 10 月　同上　修了

職　歴：2003 年 05 月　九州大学病院 臨床研修医（産婦人科）
2004 年 04 月　北九州市立医療センター 臨床研修医（産婦人科）
2008 年 10 月　福岡大学医学部生化学教室 助教
2009 年 04 月　福岡大学医学部生化学教室 講師
2012 年 11 月　米国 サンフォード・バーナム医学研究所 博士研究員（William B. Stallcup 教授）
2014 年 11 月　福岡大学医学部生化学教室 講師
2015 年 04 月　福岡大学医学部産科婦人科学講座 講師
2019 年 04 月　福岡大学医学部産科婦人科学講座 准教授
2021 年 04 月　福岡大学病院　診療教授
2023 年 04 月　福岡大学医学部産科婦人科学講座・主任教授、福岡大学病院・診療部長
現在に至る

専門医等：
日本産科婦人科学会専門医、婦人科腫瘍専門医、日本がん治療認定医
da Vinci System Certificate As a Console Surgeon
日本周産期・新生児学会周産期専門医
J-MELS ベーシック・インストラクター

所属学会等：
日本産婦人科学会、日本婦人科腫瘍学会、日本癌学会、日本産科婦人科内視鏡学会、日本婦人科ロボット手術学会、日本生殖医学会、日本生殖内分泌学会、日本エンドメトリオーシス学会、日本女性医学学会、日本再生医療学会、日本抗加齢医学会、日本周産期・新生児医学会、日本人類遺伝学会、日本産科婦人科遺伝診療学会

受賞歴等：
2010 年 1 月：
第２回福岡県医学会賞奨励賞
2013 年 5 月：
2013 AACR Judah Folkman Fellowship for Angiogenesis Research
2017 年 3 月：
日本生殖再生医学会　第12回学術集会学術奨励賞

2023 年 4 月 1 日付で福岡大学医学部産科婦人科学講座の主任教授を拝命いたしました。私は九州大学を卒業して臨床研修終了後の 2005 年に福岡大学大学院医学研究科博士課程に入学しました。がん標的治療についての研究で学位取得後は、その研究成果を臨床に繋げる事業に携わり、２年間の米国留学後に 2015 年から当講座で診療・研究・教育に従事して参りました。これまで研究面では、最新の遺伝子解析技術を用いた治療抵抗性卵巣がんの病態解明や重度の不妊症患者に対する再生医療技術の開発を行ってきました。診療面では、合併症が少ない低侵襲手術として浸透してきたロボット手術を積極的に活用し、他の診療科と連携しながら高度な骨盤外科手術の提供と婦人科腫瘍の治療成績と安全性の向上を図ってきました。現在、少子化問題は深刻な状況に陥っており、これまでとは違う産婦人科医の役割として女性のトータルヘルスケアへの意識が求められるようになってきています。そこでこれからは、複数の診療科と多職種から構成されたチーム医療による無痛分娩や妊産婦メンタルヘルスケア、働く女性の生活の質の維持・向上のために外来で行うホルモン治療や内視鏡手術、妊娠するための機能温存を必要とする若年がん患者様への支援に取り組んでいきます。2024 年度から医師の働き方改革の導入が始まり、産婦人科医不足への対応は急迫した問題ですが、総合周産期母子医療センターの拡充やロボット手術等の先進医療を継続的に発展させながら、福岡大学病院の基本理念である「温かい医療」を中心に社会のニーズに応えられる患者ファーストの医療を提供して参る所存です。また、これまで福岡大学の多くの方々にご支援いただき、教育者としても成長させていただきました。そのご恩に報いるためにも、医師に必要な知識や技能だけでなく患者に寄り添うことのできる医学生の育成にも貢献できるように尽力していきます。今後とも皆様からのより一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

# 教授就任挨拶

福岡大学病院 医療情報部 教授　吉　田　陽一郎（特別会員）

吉　田　陽一郎
教授 略歴

昭和 45 年 9 月 20 日（52 歳）

学　　歴
平成　1 年　3 月
　福岡大学附属大濠高等学校卒業
平成　2 年　4 月
　産業医科大学医学部医学科入学
平成　8 年　3 月
　同上卒業
平成 12 年　4 月
　産業医科大学大学院医学研究科 障害機構系専攻博士課程入学
平成 16 年　3 月
　博士（医学）の学位授与
　（産業医科大学 博医甲第 239 号）

職　　歴
平成　8 年　6 月
　産業医科大学病院（臨床研修医）
平成　9 年　6 月　門司労災病院（臨床研修医）
平成 10 年　6 月　北九州市立医療センター（外科レジデント）
平成 11 年　6 月　産業医科大学病院（専修医）
平成 12 年　4 月　産業医科大学大学院進学
平成 16 年　3 月　産業医科大学大学院卒業（医学博士）
平成 16 年　4 月　日本鋼管福山病院 外科 主任医師
平成 18 年　4 月　岩手労災病院　外科 外科部長
平成 19 年　4 月　大阪労災病院 外科 医長
平成 22 年　4 月　福岡大学消化器外科 助教
平成 24 年　4 月　福岡大学消化器外科 学内講師
平成 25 年　4 月　福岡大学消化器外科 講師
平成 29 年 10 月　福岡大学消化器外科 准教授
平成 31 年　4 月　福岡大学消化器外科 診療教授
令和 2 年　4 月　福岡大学病院医療情報部 診療部長　副病院長補佐
令和 5 年　4 月　福岡大学病院医療情報部 教授
現在に至る

2010 年より福岡大学病院消化器外科で仕事をさせていただき、2020 年 4 月に医療情報部の診療部長に就任させていただいておりましたが、この度 2023 年 4 月より医療情報部の教授を拝命いたしました。医療情報部の英語表記は、これまで Clinical Information Center でありましたが、Medical Informatics & Digital Medicine への変更が認められ、対外的には Medical Informatics & Digital Medicine で活動していきたいと考えています。

これからの医療の発展はデジタル化抜きでは成し遂げることが困難と考えられており、様々な分野での AI の活用、IoT のユビキタス化を軸に診断・治療方針の決定・治療にいたる全てのプロセスがデジタル化の対象になっております。囲碁や将棋の世界では既に AI は人間を凌駕し、AI から学ぶことによって更なる発展のスタートに繋がっています。また ChatGPT の衝撃的な登場により、誰もが簡単に AI を使える世の中になってしまいました。そういった中で、更なる医療の発展への思いを込めて Medical Informatics & Digital Medicine と命名させていただきました。

福岡大学病院では 2024 年 1 月より電子カルテシステムが新しくなり、患者さんがスマホのアプリで外来診察の状況を確認できるようになったり、緊急事態時でも医療ができるだけ継続できるような BCP 対策をしたり、医師のリモートワークを補助する機能や電子カルテ上でオンライン診療ができる機能などを新たに導入する予定です。AI に関しては、2022 年 11 月に胸部 X 線検査や CT 検査の読影補助として既に導入されておりますが、福岡大学発の AI 診断を目指して研究開発に挑んでいきたいと思っております。

また、これからの医療は病院の外に広がり、日常生活の中で医療が提供され、医療の主体が患者さん自身に変わっていくと言われています。その中心的役割を担うのがウェアラブルデバイスをはじめとする IoT 機器や本人が自由にアクセスできる Personal Health Record 等のデジタルデバイス・デジタルヘルスです。我々もそれらの可能性を模索しつつ、新たな価値観を創出したいと考えています。

デジタル医療は発展途上で、現状では有効性・安全性・コスト・個人情報の問題など課題はたくさんありますが、もはや医療における AI の優位性はゆるぎないものになりつつあります。これらを利用して医療の質の向上を目指していきたいと思っておりますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

教授退任挨拶

# 教授退任挨拶

福岡大学医学部 産科婦人科学 前教授　宮　本　新　吾　(特別会員)

私は、希望して九州大学から 2004 年に福岡大学に赴任してまいりました。退任するにあたって数えてみますと福岡大学での勤務の合計は、19 年となります。現役医師 40 年の半分近くを福岡大学で過ごすことができました。

そのなかで退任間際は、退任をどのような形で、終了するのか、引継ぎはどのようにするのがよいのか、自分自身にその覚悟があるのか、などと 1 年前より自問自答することがよくありました。「次に時代を造るのは自分ではない」ということが分かっていても、虚しさや寂しさが沸き上がってくるものです。“これでは、だめだ”と考えて自分の退任後の目標を現職のころから抱いていた夢を引き続き追いかけることにしました。すなわち、トランスレーショナル・リサーチ事業として、“魔の川”、“死の谷”、“ダ―ウインの海”を乗り越えて、研究を事業化することに今も挑戦しています。このように考え・実行するようになり、精神的にも落ち着いて自分自身の退任を受け入れれるようになった気がします。もちろん、その中で多くの後輩、先輩、医療スタッフ、教室員、医学部関係者のご支援があったことは言うまでもありません。皆様、本当にありがとうございました。また、同窓でもない私に今後も特別会員として烏帽子会の総会に参加させて頂けるとのこと、本当にありがとうございます。

私は福岡大学出身ではありません。厚かましくもこれまで、福岡大学医学部同窓会の烏帽子会の総会にコロナ期以外は毎年参加させて頂きました。特に、懇親会にも楽しく参加させて頂き、多くの教室員に賞を賜っています。表彰を受けた教室員は、皆様誇らしげで、その後も教室運営の中心となって頑張って頂いています。このように、烏帽子会の諸先生からは、私並びに教室員に対して非常に手厚くして頂きました。烏帽子会に参加していくなかで、烏帽子会の諸先生には向上心を有する後輩を育成しようとする精神が脈々と受け継がれています。この熱い精神のもと、同窓会より表彰を受けることができる教室員の方々が実に羨ましく思いました。非常に素晴らしいことと、今でも感銘を受けています。

今後も数年かもしれませんが、微力ながら産婦人科の教室員の業績を少しでも伸ばして、次の時代のリーダー、可能なら教授となれる人材を育成する助成ができれば、と心より願っています。

学会報告

# 一般社団法人中性脂肪学会 第５回学術集会　開催のご報告

福岡大学筑紫病院 内分泌・糖尿病内科教授　小　林　邦　久（特別会員）

福岡大学医学部同窓会のみなさま、このたびは中性脂肪学会第５回学術集会に対し、多大なるご援助をくださいまして、誠にありがとうございました。厚くお礼を申し上げます。

中性脂肪学会は「分かっていそうで、まだまだ分かっていない」中性脂肪についてみなで学んでいくために私どもが立ち上げた学会です（https://tgbm.org/about-the-society/）。第５回学術集会はテーマを『「健康 100 年を目指す中性脂肪学」―九州・沖縄からのメッセージ―』として、2022 年 10 月 15 日（土）に福大メディカルホールと Web 配信とのハイブリッドで開催いたしました。副大会長には腎臓・膠原病内科の安野哲彦准教授と金沢医科大学臨床病理学の山田壮亮教授とにお願いしました。

朔 啓二郎学長から来賓挨拶をいただいた後に、大会長講演にひきつづき、シンポジウム「中性脂肪学の解決すべき課題」として肥満症・脂肪萎縮症・NASH・消化管上皮内脂肪滴（筑紫病院内視鏡部八尾建史教授）・リポ蛋白糸球体症（斉藤喬雄名誉教授）・高中性脂肪血症のゲノムワイド相関解析などの最先端の知見を各分野のエキスパートの先生方に報告していただきました。特別講演においては神戸大学循環器内科学の平田健一教授に「動脈硬化性疾患予防における慢性炎症と脂質機能の重要性」、そして衛生・公衆衛生学の有馬久富教授に「疫学研究と臨床試験を考える」のタイトルでお話しいただきました。我が国の指導的立場にあるお二人の先生からご自身の研究の現状と未来とについて俯瞰していただき、参加した全ての研究者に対してすばらしい刺激をあたえていただきました。

「中性脂肪学におけるトピックス」の中では「ミトコンドリアが関与する脂質異常症の検討」として腎臓・膠原病内科の安野哲彦准教授に報告いただきました。最後に、2025 年の大阪・関西万博の TEAM EXPO 2025 共創チャレンジ企画において、中性脂肪学会が取り組んでいる希少難治性疾患の中性脂肪蓄積心筋血管症（TGCV）についての啓発イベントを「チーム TGCV で、この難病をグローバルに克服して、いのち輝く未来を創る!」としておこなうことが報告されました。

中性脂肪学分野の最先端の研究成果が発表され、多くの方に参加いただき、大きな反響がありました。私どもは今後も、みなさまに誇れるような研究をすすめてまいります。あらためまして、ご支援を賜りましたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

学会記念写真　（以下敬称略）

左から：平野賢一（中性脂肪学会代表理事：大阪大学大学院医学系研究科 中性脂肪学共同研究講座 特任教授）、安野哲彦（副大会長：腎臓・膠原病内科准教授）、小林邦久（大会長）、山田壮亮（副大会長：金沢医科大学臨床病理学教授）、財満信宏（近畿大学農学部応用生命化学科教授）

中性脂肪学会第５回学術集会ポスター

# 第 104 回日本消化器内視鏡学会総会を終えて

福岡大学筑紫病院 消化器内科 教授　植　木　敏　晴（8 回生）

第 30 回日本消化器関連学会週間（JDDW 2022）の一環として第 104 回日本消化器内視鏡学会総会を 2022 年 10 月 27 日（木）から 30 日（日）まで福岡国際会議場を中心として開催しました。福岡での JDDW の開催は、2011 年と 2017 年で今回が 5 年ぶりでした。内視鏡学会総会会長は、当科として 1999 年の八尾恒良先生、2011 年の松井敏幸先生に続いて私で 3 回目になりました。学会期間中終日晴天に恵まれ、参加登録者は全体で 24,220 名、会場参加が 6,584 名、Web 参加が 17,636 名で、過去最大の参加者でした。コロナ禍で海外の先生方の会場参加が叶いませんでしたが、参加 6 学会の会長、実務委員や秘書をはじめとする各学会の関係者と JDDW 役員と事務局、他関係者のご尽力とご協力により本会が盛会に、そして無事に終了したことをご報告致します。

本総会のプログラムは、特別講演 2 題、招待講演 3 題、総演題数は 569 題で国際セッションを含めた 16 の主題セッション、一般演題（デジタルポスター）、スパンサードセミナーなど日常臨床に役立つ企画で上部消化管、下部消化管、胆膵と消化器の各領域をバランスよく編成できました。多くの会場が満席で、活発な討論がなされていました。

今回が JDDW の 30 周年記念であり、皇室の方々の中から福岡にゆかりのある寛仁親王妃信子妃殿下をお招きし、記念式典と藤井フミヤさんのコンサートが行われました。記念講演ではノーベル生理学・医学賞を受賞された本庶　佑先生、山中伸弥先生にご登壇していただきました。また、Strategic International Session が企画され、消化器内視鏡学会では、変わりゆく内視鏡診療と内視鏡教育のタイトルで、これまでの 30 年とこれからの 30 年について国内外から発表し、討論して頂きました。

久しぶりの福岡での開催で、新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着き始め、多くの全国の先生方が会場の内外で意見交換されていました。皆さん、夜は博多の街を堪能されたことでしょう。拡大プログラム委員会も感染対策を十分に行うことで 2 年半ぶりに開催することができました。福岡大学を代表して小玉正太医学部長にご挨拶を頂戴しました。ありがとうございました。

単独学会でないためいろいろ制約がありましたが、私が JDDW 2011 で第 82 回総会長の実務担当をしてたこともあり、久部事務局長、忽那秘書、医局員の協力で順調に滞りなく準備をすることができました。

本会の開催にあたり、烏帽子会、筑紫病院同門会、関連病院の先生方の力添えとご協力に心より感謝申し上げます。

# 日本解剖学会 第 78 回九州支部学術集会開催のご報告

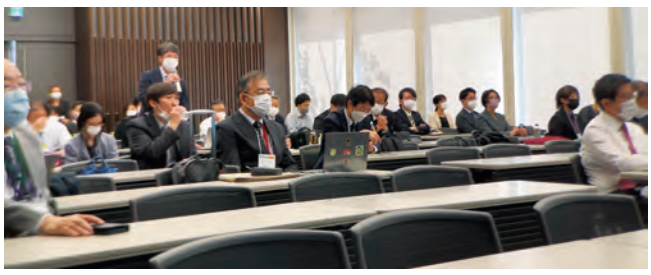
福岡大学医学部 解剖学講座 准教授　貴　田　浩　志

令和 4 年 10 月 29 日に福岡大学中央図書館にて、日本解剖学会　第 78 回九州支部学術集会（会長：立花克郎）を開催いたしました。本学会開催にあたり、医学部同窓会からご支援を賜りましたことに心より感謝を申し上げます。

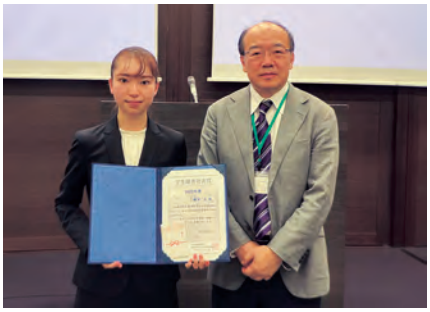
COVID-19 感染症流行の第 7 波と第 8 波の「谷間」のタイミングでの開催となり、今までのように人と人が直接交流出来る会になるように、テーマを“集う、ふたたび!”として掲げ、3 年ぶりの対面開催で実施されました。九州・沖縄九州・沖縄地方の一円の大学から合計 70 名の先生方にご参加いただき、「学生セッション」を含む、「教育・実習」、「神経」、「遺伝子治療」、「分子生物」、「運動器」のセッションで解剖学・形態学の研究と教育に関する様々なテーマについて発表と議論が行われました。当講座からは「抗体- 遺伝子結合ペプチドを用いた細胞選択的遺伝子送達法の開発」（貴田浩志講師）、「Plantaris muscle characterization by dissection in cadavers and by ultrasound imaging in living subjects」（フェリル　ロリト講師）、「シェーグレン症候群を伴う関節リウマチによって両側弾撥膝を発症した 1 例」（山﨑裕太郎助教）の 3 演題を発表いたしました。

特別講演として、東京医科歯科大学 生体材料工学研究所教授の位高啓史先生に「mRNA 創薬のサイエンス：医学・薬学・工学を横断して」、福岡大学医学部整形外科学教室准教授の前山彰先生に「変形性膝関節症の病態と解剖学に基づいた治療戦略」という演題でそれぞれご講演いただきました。位高先生には、近年、COVID-19 感染症に対するワクチンとして、一気に脚光を浴びた mRNA 医薬が実用化に至るまでの歴史と、最新の研究動向についてご講演いただきました。前山先生には、近年明らかになりつつある、変形性膝関節症の病態と、近年の膝周囲骨切り術の発展などにつきご講演いただきました。

COVID-19 感染症流行下の行動制限が残る中での開催ではありましたが、参加された諸先生には活発な議論、交流をしていただき、盛会裏に閉会いたしました。この度、地方会の準備、運営を順調に行えたことは、福岡大学同窓会からの支援の賜物と、改めて心より感謝を申し上げます。今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



学会風景



学生優秀発表賞

山﨑助教の発表

スタッフ一同

# 日本子ども虐待防止学会第 28 回学術集会ふくおか大会 令和 4 年 12 月 10 日（土）～ 11 日（日）開催報告

日本子ども虐待防止学会第 28 回学術集会ふくおか大会　大会長
福岡大学筑紫病院 臨床医学研究センター 教授　小　川　　厚（6 回生）

2022 年 12 月 10 日 11 日の両日、福岡市において日本子ども虐待防止学会第 28 回学術集会ふくおか大会を開催させて頂きました。本学会は 2004 年の第 10 回大会を満留昭久名誉教授が開催されて以来、18 年ぶりに福岡に戻ってまいりました。私ども実行委員会は、前回の大会長である故満留昭久先生の思いを受け継ぎ、満留先生の著書のタイトルからいただいた「こころをつなぐ」をメインテーマとして掲げることとしました。それは、子ども達とこころをつなぐことのみならず、多職種の皆様と心をつなぎ、より良い明日を目指す私たちの信条です。コロナ禍の今の時代だからこそ、支援者も当事者も、そして地域、文化、国境を超えて、孤立を超えてつながりあうことを大切にしたいという願いを込めたものです。

大会当日のオープニングセレモニーでは、大会長、理事長挨拶に続き、荒瀬泰子福岡市副市長ご来場による来賓祝辞を、引き続き福岡県知事、北九州市長、久留米市長のビデオメッセージをいただきました。厚生労働省と内閣官房こども家庭庁設立準備室からの行政説明の後、前理事長と新理事長のリレー基調講演を執り行い、福岡大学和太鼓部「鼓舞猿」による演舞のプレゼンテーションを行わせて頂きました。

海外招聘者による特別講演は 4 演題、南カリフォルニア大学の Thomas D. Lyon 教授には「性的虐待の刑事手続におけるアメリカでの実践―子どもの司法面接と証人尋問におけるベストプラクティスとは―」を、The Open 大学の Jane Dalrymple 博士には「子ども・若者を守るための傾聴文化の創造～英国の子どもアドボカシーから学ぶ～」、コロラド大学 Kempe センターの Lisa Merkel-Holguin 准教授は「子ども虐待対応のパラダイムシフト：子どもと家族が意思決定の中心となるシステムを想像してみよう」、日本財団スポンサードセッションとして Tulane 大学

の Charles H. Zeanah 教授による「乳幼児にとっての家庭養育の重要性～国際的なエビデンスと乳幼児を養育する里親への示唆～」をご講演いただきました。Lyon 先生と Merkel-Holguin 先生には大会企画ワークショップも開催して頂きました。

その他 10 の大会企画シンポジウム、7 つの委員会等シンポジウム、8 つの教育講演、6 つのベーシックレクチャーと盛り沢山の企画を開催させて頂きました。また、社会的養護経験者や現在社会的擁護を受けている者限定プログラムの子ども・若者プログラムとして「みんなの「こえ」きかせてワーク」も開催させて頂き好評でした。

公募した演題は、最終的に公募シンポジウム 75 題、一般演題［口演］53 題、［ポスター］44 題、パネル展示 33 題と多数の演題を頂戴しました。

現地参加とオンデマンド参加で合計 3,494 名にご参加いただきました。そのうち、ユース参加者は 470 名と多数のご参加をいただきふくおか大会を盛会に終えることができました。今回の学術集会は当事者の参加にフォーカスを当て、各演題でも当事者参加に配慮をさせて頂きました。その一環としてユース枠（29 歳以下前期登録 2,000 円、後期登録 3,000 円の参加費）の設定をさせて頂き、盛況でした。現地では好天にも恵まれ、大盛況で立ち見や人が溢れている会場も少なくなく、参加できない方には誠に申し訳ありませんでした。92 名のボランティアの方々にも、大変お世話になりました。

今回の学術集会が滞りなく開催できましたのも、同窓会の先生方の御支援のおかげであります。この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。今後もご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

# 第 18 回日本小児心身医学会九州沖縄地方会を終えて

福岡大学医学部 小児科学 主任教授　永　光　信一郎（13 回生 小児科診療部長）

2023 年 3 月 12 日（日）に福岡大学病院メディカルホールにて第 18 回日本小児心身医学会九州沖縄地方会が開催されました。同窓会より学会寄付を賜りましたこと厚くお礼を申し上げます。日本小児心身医学会は、子どもの心の問題に対する診療、研究、人材育成を担う日本小児科学会の分科会です。現在、永光が学会理事長を務めています。年間出生数が 80 万人（1973 年の出生数 210 万人）を切り、子どもの数が減り続ける一方、子どもの自殺、不登校、虐待などの心の問題は増加し続けています。子どもの心の診療は、限られた医師、限られた病院による特別なものでなく、地域かかりつけ医と子どもの心の診療医による双方向性の地域連携システム作りが大切と感じています。一方で、今後の地域かかりつけ医の役割として、「病気の子を診る」に加えて「健康な子を診る」という概念が必要になってきます。すべての子どもがメンタルヘルス疾患に罹患するリスクがある中、リスク場面に遭遇したときに本人がどのように対処するか先行的なガイダンスを行う体制が必要です。子ども達が自分自身のヘルスプロモーション（健康増進）に関心をもち、健康な時から自分のことを相談できるかかりつけ医が必要です。その方法として我が国では制度化されていない学童・思春期健診の実装化が期待されています。また、子どもの心の診療医の人材育成のためには、心の診療が医学（サイエンス）であることを科学的に示し、若手医師の学術的好奇心を高めていくことも必要です。これら様々なミッションをいかに実施していくか地域で検討を行う機会が地方会になります。九州沖縄地区地方会の立ち上げのため、第 1 回から第 3 回まで永光が福岡で担当させていただき、第 4 回以降、九州沖縄各県持ち回りで地方会を開催しております。改めて、この度、同窓会より本会開催にあたり学会寄付を賜りましたこと厚くお礼を申し上げます。

令和６年度　福岡大学医学部同窓会烏帽子会

# 研究奨励賞募集要項

**対　　象**：正会員及び準会員で､40 才未満の者または学部卒業後 10 年未満の者
（本会会費完納を条件とする）
**研 究 課 題**：医学に関するものであれば自由（医学に関する研究計画又は研究論文）
**申 請 方 法**：所定の申請書による（所定欄に支部長推薦を要す）
**提　出　先**：〒 814-0180　福岡市城南区七隈 7-45-1　福岡大学医学部同窓会事務局
TEL 092-865-6353（直通）　代表 092-801-1011 ／内線 3032　Fax 092-865-9484
**締　　切：令和６年5月６日（月）**
**賞状・賞金**：奨励賞（優秀論文賞を含む）５件以内
**発表及び表彰**：令和６年７月、第 ４３ 回同窓会総会席上　必ず出席すること
**そ　の　他**：①論文受賞者は抄録を提出すること
計画受賞者は１年後研究成果報告書を提出すること
②申請書は同窓会事務局に請求又は同窓会ホームページからダウンロードの事
③申請書はワープロで記載し、過去の研究業績（原著、著書、症例報告、学会発表)、
研究の独創性・重要性を十分に書く事

**※準会員の方もご応募ください。**

福岡大学医学部同窓会烏帽子会

# 在外研修援助金　募集要項

**長期研修**
**対　　象**：**正会員、準会員**（本会会費完納を条件とする）で医学の研究または医療技術の習得のため、
３ヶ月以上外国に留学する者
**申請方法**：所定の申請書により留学出発３ヶ月前までに提出の事
**提 出 先**：〒 814-0180　福岡市城南区七隈 7-45-1
福岡大学医学部同窓会事務局
ＴＥＬ 092-865-6353(直通)　代表 092-801-1011 ／内線 3032
ＦＡＸ 092-865-9484
**援 助 金**：１件 20 万円を限度とし、年間５件以内
**発　　表**：本人に文書にて連絡
**そ の 他**：①受給者は帰国後その成果を同窓会会報に発表する事
②申請書は同窓会事務局に請求又は烏帽子会ホームページからダウンロードの事
③研修中に生じた問題については同窓会は関与しない
※なお在外研究援助金をうけ留学している者は、出来る限り学生会員海外研修助成事業に賛同し、
渡航研修する受け入れ側施設担当者として、協力する事が望ましい。

教室紹介

同窓会報では以前も教室医局紹介を掲載しておりました。
教授が代わられた講座が増えましたので 69 号より順次教室紹介を掲載しております。

# 筑紫病院 循環器内科

福岡大学筑紫病院 病院長 循環器内科教授　河　村　　彰　（17 回生）

**【概要】**

福岡大学筑紫病院循環器内科は初代 廣木教授、浦田教授に続き、2020 年 4 月に河村が医局を引き継ぎました。当科では心臓カテーテル検査・治療、不整脈治療、ペースメーカー手術、心不全治療や心臓リハビリをはじめとして、各々が専門領域を持ちながらチームとして機能し、幅広い循環器領域の疾患に対する医療を実践する事で、今まで以上に地域の方々のニーズに応えられる様、努めて参ります。

**【特徴、特色】**

**[虚血性心疾患]**

虚血性心疾患に対するカーテル検査・治療（PCI）数はここ 2 年で大幅に増加しました。また、心筋梗塞による緊急搬入も増加傾向にあります。

2020 年以降（2022 年 12 月まで）、当科での急性心筋梗塞のカテーテル治療症例（全 72 症例）の院内転帰は手技成功率　95.8％、院内死亡率　1.3% でありました。 また全 PCI 後の中期的治療成績（全 420 症例：2022 年 9 月迄）は、標的病変再血行再建 (Taget Lesion revacularization)8.4%、新規の心筋梗塞の発症は 3.0％、ステント加療後の血栓症は 0.7％、follow up 期間中の脳梗塞の発症は 1.0％と良好な成績でありました。

| | 2019 年 | 2020 年 | 2021 年 | 2022 年 |
|---|---|---|---|---|
| 冠動脈造影 | 530 | 405 | 439 | 559 |
| PCI（うち急性心筋梗塞） | 103(10) | 93(11) | 135(13) | 226(58) |
| 末梢動脈形成術 | 8 | 17 | 16 | 12 |

**[不整脈・デバイス部門]**

2022 年度は新規ペースメーカー植え込み 37 例、電池交換術 17 例の手術を行いましたが、手術に際して大きな合併症は皆無でした。また、発作性上室頻拍や心房粗動に対するカテーテルアブレーション治療も行っています。今年度中には心房細動に対してもカテーテルアブレーション治療を開始の予定であります。

| ペースメーカー植え込み件数の推移 | | |
|---|---|---|
| | 新規植え込み件数 | 電池交換 |
| 2019 年度 | 34 | 16 |
| 2020 年度 | 21 | 16 |
| 2021 年度 | 29 | 16 |
| 2022 年度 | 37 | 17 |

［心不全部門］

社会の高齢化に伴い心不全患者が急増しており、「心不全パンデミック」と呼ばれています。当院では重症心不全患者の入院加療を担っておりますが、退院後も通院や外来での加療や心臓リハビリテーション、そして地域の先生方や病院と連携し、再増悪の予防を目指しています。

| 福岡大学筑紫病院　循環器内科　総入院患者数と心不全加療目的入院の割合 | | |
|---|---|---|
| | 総入院数（心不全） | 心不全入院の割合（%） |
| 2019 年度 | 739(113) | 15.3 |
| 2020 年度 | 581(113) | 19.4 |
| 2021 年度 | 742(146) | 19.6 |
| 2022 年度 | 741(118) | 15.9 |

福岡大学筑紫病院は、地域医療支援病院であり、地域医療への貢献は大命題であります。当科においては、急患を速やかに受け入れ、症例を選ばず、病診、病病連携に特に積極的で、常に地域医療への貢献意識を持った診療を実践したいと考えております。今後とも皆様のお力添えを、是非とも宜しくお願い申し上げます。

# 筑紫病院 呼吸器内科

福岡大学筑紫病院 呼吸器内科 診療部長 教授
感染制御部 部長　石　井　　寛（特別会員）

## Change the world with our passion

診療部長の交代と同時に新型コロナウイルス感染症の大流行が始まり、瞬く間に３年が経過しました。当院は第２種感染症指定医療機関であり、かつCOVID-19診療の重点医療機関に認定されました。2021年に立ち上げた感染制御部で３名が活動し、診療部長自らコロナ専用病棟医長を務め、全科が一丸となって日々対応しました。心身とも苦しい時期もありましたが、医局員の皆で助け合いながら何とか乗り切り、４年目を迎えています。現在、本院からの派遣と直接の入局者、また感染制御部と合わせて10名に増え、筑紫医療圏のあらゆる診療依頼に対して総合的な診断・治療を行っています。

我々は、疑問を感じた症例を論文化し、次の臨床研究へつなげることこそが臨床の醍醐味であるという思いを胸に、筑紫病院から世界に発信することを目指しています。この３年間で、当科のオリジナルとして症例報告21編（英文16編）、原著17編（英文）の論文を世に出すことができました。複数の大学や施設と密な交流をもって多施設共同研究に参加しており、今後も地域医療はもちろんのこと、学術面でも何らかの社会貢献に繋がればという熱意をもって、一同頑張ってまいります。

後列左から：高田、宇都宮、小出、竹中、和田
前列左から：中島、吉田、石井、串間、木下
（以上、いずれも敬称略）

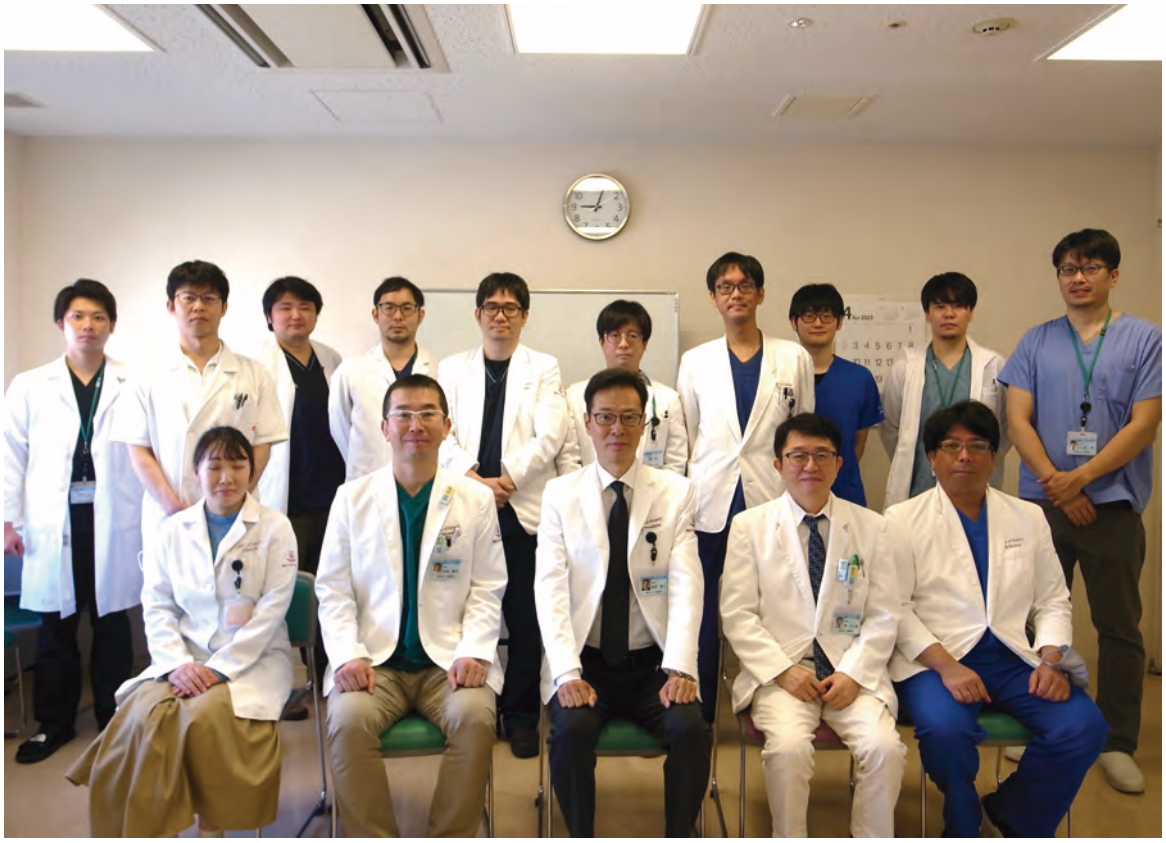
# 福岡大学筑紫病院 外科 令和５年度ご挨拶

福岡大学筑紫病院 外科 教授　渡　部　雅　人（特別会員）

平成31年４月１日付で福岡大学筑紫病院外科教授に就任いたしました渡部雅人（わたなべまさと）と申します。初代有馬純孝教授、２代目前川隆文教授に続いて、私が３代目となりコロナ禍を経て５年目となります。当科は消化器・一般外科を担っており、福岡大学病院消化器外科と連携して診療にあたっております。

上部消化管外科は私の専門であり、食道外科専門医、日本内視鏡外科学会技術認定を胸腔鏡下食道切除術で取得しています。2016 年に初めてベストドクターに選出され、筑紫病院赴任後も継続しています。2023 年筑紫病院は日本胃癌学会認定施設として認定されました。下部消化管外科は日本大腸肛門病学会認定施設で、内視鏡外科技術認定医指導下に腹腔鏡手術を行っています。炎症性腸疾患に関しては厚労省の難治性疾患研究班員である東大二郎准教授が指導しています。肝胆膵外科は肝胆膵高度技能専門医の宮坂義浩講師指導下に高難度新規医療手術も行っています。

筑紫医療圏でも高齢化が進み、悪性新生物の入院患者推計は増加傾向にあり、地域がん診療病院として基本理念である「あたたかい医療」を行っていきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



《令和５年度外科スタッフ》
後列左から　山門、渡邉、平野、眞木、甲斐田、長野、高橋、入江、花岡、川元
前列左から　江口（秘書）、宮坂（医局長）、渡部（診療部長）、東（外来医長）、柴田（病棟医長）

# 福岡大学筑紫病院脳神経外科・脳神経内科・脳卒中センター

福岡大学筑紫病院 脳神経外科 教授　東　登志夫（特別会員）

福岡大学筑紫病院脳神経外科には、当院開院時の1985年6月から初代の田中彰教授、2008年10月から風川清教授が就任されました。2018年10月に私が着任しています。脳神経内科坪井教授のご高配によりスタッフを派遣していただいており、脳神経外科医と脳神経内科医が全く同じチームで診療を行っているユニークな診療グループです。2022年10月から診療科として新たに脳神経内科を開設していただき、津川潤准教授が診療部長、また脳卒中センター診療部は新居浩平准教授が診療部長となっています。診療において内科的な視点を合わせ持つことで、患者さんにより良い結果をもたらしています。大学院講座は、筑紫医療圏における当院の役割を考慮し、「脳卒中予防・地域医療学」という講座名にしました。「患者さんの生活の質の改善につながる、リハビリテーションや再発・重症化予防の方法を検討し、地域における効率的な治療支援システム、発症予防の方法を検討する」といった大きな目標を掲げています。筑紫野・太宰府という悠久の歴史のふるさとに抱かれて、患者さんにやさしい最先端の医療を行える、そんなチーム作りを目指しています。

# 筑紫病院病理部・病理診断科のご紹介

福岡大学筑紫病院 病理部・病理診断科（教授、副病院長、病理部長） 二 村 聡（特別会員）

令和２年４月１日付で筑紫病院病理部長に就任いたしました二村聡です。同窓会員の皆様方にご挨拶かたがた、当部署を少し紹介させていただきます。

皆様方にとって、病理診断科はあまり身近な存在ではないかも知れませんが、決して不人気な科ではありません。事実、日本病理学会によれば女性医師が希望する人気診療科のひとつとなっています。一昔前の映画や小説では、病理医は暗い地下の一角にある検査室で働く、やや偏屈な医師として描かれ、いつしか映画『白い巨塔』の大河内清作教授のような厳格な学者然としたイメージが定着し、近寄りがたい存在になってしまいました。しかし、いまは違います。

病理診断に従事するわたしたちは、患者さんとの直接的な接点はほとんどありませんが、顕微鏡の向こう側に見える患者さんの苦しみを想像し、適切な病理診断を差し上げられるよう、つねに心身と技術を磨き、診療各科に広く門戸を開いています。

昭和 60 年に当院が開設されて以来、代々のスタッフによって診療の質を基盤から支えてきました。とても小さな部署（写真）ですが、この先も皆様方から揺るぎない信頼を寄せていただけるよう一同、精進する所存です。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

写真（2023 年 4 月 7 日撮影）：お互い適度な距離を保ちつつ、信頼・協力し合い、日々の診療に臨んでいます。
全員、出身校が異なり、多様性に富んでいます。
また、消化器系内科医の任意研修、近隣の臨床検査学校や医学部医学科の実習生も随時受け入れて教育面の充実を図っています。

支部だより

# 2022年「上方会」関西支部便り

関西支部長　渡　邉　太　郎　（11回生）社会医療法人 純幸会　理事長　関西メディカル病院　院長

2022年12月30日に新型コロナウイルスの為に中止していた「上方会　忘年会」を3年ぶりにリッツカールトン大阪ホテルで無事に行うことができましたので報告させていただきます。

直前、大阪府ではすでに第8波が立ち上がりだしていました。上方会を行なって良いのか、OBだけでするのか、学生さんに声をかけるのかギリギリまで悩みましたが、結局無事にOB16名、学生15名、総勢31名で行うことができました。さらにOBの中には関西出身の小玉医学部長も参加、現状の福岡大学医学部の活躍などスライドを交えてレクチャーをいただき、卒業生として頑張っている福岡大学とこれからの展望など興味あるお話をたくさん聞かせていただきました。大学から遠く離れて仕事していると母校の活躍を聞くのは嬉しく感じます。

少し上方会の説明をします。毎年、福岡大学医学部に入学する関西出身者がいます。入学すると関西出身者の集いとして学生のみならず教官も交えた「上方会」が行われています。私が入学したのは40年以上前ですが、すでにその当時から上方会が福岡と大阪で行われていました。私が学生の当時は関西と関連のある松岡先生（生化学教授）や貴船先生（寄生虫学教授）が福岡のみならす大阪にも参加されていました。大阪での「上方会」は毎年12月の年末です。28～30日で忘年会を行なってきました。年末にする理由は現役の学生さんが冬休みに参加できるのはこの時しかないからです。学生とOBが集う会です。OBは今年関西からどんな学生さんが後輩になったのか興味津々です。自分の出身校であったりすると嬉しいものです。毎回参加して思うのですが私の頃に比べると関西の名門進学校からの入学者が増えたと実感しています。また学生さんにとっては関西の情報を得る重要な役割を上方会は担っています。先輩がこんな活躍している。年月を重ねて関西に福大出身者が活躍していることをもっと知って欲しいです。今後も関西支部はOBと現役、そして大阪のみならず福岡との横のつながりを支えていきたいと思います。大阪の「上方会」の伝統として学生さんの参加費は無料です。OBからの寄付でやりくりし伝統を守り続けています。

学生会員支援報告

# M4 白衣授与・Student Doctor 認定式

福岡大学医学部 医学教育推進講座 教授　安　元　佐　和（7回生）

日頃より、同窓会の皆様には、福岡大学の医学教育にご支援をいただきまして誠に有難うございます。

2022 年度の白衣授与・Student Doctor 認定式は、2023 年 2 月 3 日に医学部 RI 大講堂にて、3 年ぶりに父兄や同窓会関係者も出席し執り行われました。

小玉医学部長の挨拶のあと、学生一人一人に Student Dr. 認定証と同窓会からの白衣が授与されました。その後、真新しい白衣に腕を通し、新 Student Dr.94 名全員で「ヒポクラテスの誓い」を宣誓し、校歌静聴、記念撮影で式を終了しました。白衣授与式では、各学生が書いた「プロフェッショナル臨床実習の流儀」を掲示しました。

2022 年 5 月に医師法の一部が改正され 2023 年 4 月施行となり、医学生も医療者として責任を自覚して患者さんの診療に参加し、実臨床で経験を積む必要があります。また、近年の医師国家試験の特徴として、診療チームの一員として臨床実習を経験したかを問う問題が主体となり、机上での予備校の動画学習や過去問だけでは対応できなくなっています。患者さんの診療にどっぷりと浸かる臨床実習とともに、5 年生に進級後は予備校講師による第 1 回特別講義、過去 5 年分の医師国家試験問題から出題される中間試験の 1 回目など、国家試験に向けた対策もスタートしています。

福大病院近隣の病院の先生がたには、M5,M6 の学外クリニカル　クラークシップ、M3 の地域医療体験でも医学生のご指導をいただいております。未熟な学生たちではありますが、今後とも医療人として厳しくそして暖かいご指導をいただけます様、心からお願い申し上げます。

同窓会の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

# 白衣授与・臨床実習に向けて

大　山　真　実（M5）

2023 年 2 月 3 日、RI 講堂にて白衣授与式・StudentDoctor 認定式が行われました。このような素晴らしい機会を設けてくださり、誠にありがとうございました。5 年生を代表し、携わって頂いた方々に心よりお礼を申し上げます。今年は多くの保護者の皆様にも見届けていただき、大変嬉しく思います。

コロナ禍での学生生活は風のように去っていきました。もう白衣を着ている自分に驚きつつ、臨床実習に向けて気を引き締めていかなければならないとひしひしと感じております。

私達は 4 年間、座学を中心として必死に医学知識を学んできました。臨床実習では、医学知識が実際の医療現場でどのように活かされているのかを学んでいきたいと思います。また、臨床実習は、医師の患者さんやそのご家族、他の医療従事者の方との関わり方を間近で見ることができる貴重な機会です。このような座学ではイメージし難いことも積極的に吸収していきたいと考えております。

憧れの医師にまた一歩近づく事ができることを非常に嬉しく思います。これからの 2 年間は理想の良医になる為に最も大切な時期と言っても過言ではありません。1 日も早く医療従事者として社会に貢献できるよう、今やるべきことに精一杯尽力していく所存です。

短いですが、以上を御礼の言葉とさせていただきます。

# 2022 年度　M1 白衣授与式

福岡大学医学部 医学教育推進講座 教授　安　元　佐　和（7回生）

同窓会の皆様には、平素から学生への多くのご支援をいただき誠に有り難うございます。

2022 年度も新型コロナウイルス感染拡大が収束せず、夏休み明けの 9 月の看護実習とクリニカル・クラークシップの早期体験実習を中止せざるを得ませんでした。そのため、昨年と同様に 2022 月 12 月 14 日の「行動科学 I」で、ケーシー白衣と同窓会 T シャツの贈呈式を行いました。その後、全員がケーシー白衣を着て一人ずつ自分の将来のビジョンを語る 1 分間プレゼンテーションを行いました。新型コロナウイルス感染禍にあって、1 年生から始まる専門科目（解剖学、生化学）の到達目標をクリアすべく、仲間をつくり励まし合いながら学習している姿をよく見かけました。本年度は部活動や九山、西医体も再開され、学生達の活動も活発になってきました。

医学の道と学生時代の様々な体験を糧に、人としても成長してもらいたいと切に願っています。

同窓会の皆様からの医学生へのご支援に、心からの感謝を申し上げます。

今後とも変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

白衣授与式が挙行されました。この式で我々は福岡大学医学部医学科生としての自覚を再認し、プロフェッショナルな医師を目指すことへの責任を感じました。世間では未だに新型コロナウイルスの渦中にあり、厳しい状況が続いていますが、来年の病棟実習へ向けてまずは日々の勉学に集中して臨むことを最優先にして前進していきます。ありがとうございました。

2022年　M1　代表　宇野　植生

# 第 117 回 医師国家試験結果と学位記授与式の報告

福岡大学医学教育推進講座 教授　安　元　佐　和（7回生）

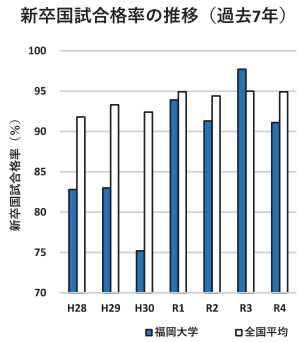
令和 5 年 3 月 19 日に令和 4 年度の学位記授与式が執り行われ、112 名が福岡大学医学部医学科を卒業しました。本年度は父兄や来賓の出席もありましたが、謝恩会は 4 年連続の中止となりました。

第 117 回医師国家試験は、令和 5 年 2 月 4-5 日に施行され、新卒 112 名、既卒 6 名が受験しました。合格発表は 3 月 16 日で福岡大学の合格率は、新卒 91.1％（102 名合格）、全体 89.0％（105 名、既卒 3 名合格）という結果でした。新卒者の合格率は前年の第 116 回の合格率 97.7％より下回りましたが、合格者数は 84 人から 102 名と大幅に増加しました。新卒の合格率は 4 年連続で 90％以上を維持し過去 3 年の卒業生のうちの国試浪人者は、全員が翌年の国家試験で合格しております。これは卒業試験と国試合格者の成績などの IR(Institutional Research) に基づいて卒業判定基準を定め、卒業判定を行っている事が一定の成果をあげているものと考えます。学生に対してもこの卒業判定基準の根拠を前もって開示することによって、卒業時の到達目標、卒業判定に対する学生の理解が進み、学生がそれを目指して努力する姿勢が見られ、国試合格率にも繋がっています。今年の第 117 回医師国家試験では留年経験者や AU 経験者の中から多くの国試合格者が出たことも嬉しいニュースとなりました。

この 4 月から全国各地で第 46 回卒業生は初期研修をスタートし、今頃四苦八苦の毎日を送っているものと思います。FU-RIGHT を支えに良医として幸せな人生を送ってくれることを心から祈念します。各病院で卒業生をご指導いただく同窓の先生方には、どうか厳しくも愛あるご指導を頂ければと存じます。

最後になりますが、同窓会の皆様におかれましては、国試に向けての激励、国試対策補習の際に多くのご支援をいただきましたことに、心から深く感謝申し上げます。

今後とも福岡大学の医学教育にご協力、ご支援の程をよろしくお願い申し上げます。



**訃　報**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 正会員 | 甲斐　保 先生 | 令和5年　1月10日 | ご逝去（2回生） |
| 正会員 | 大塩善幸 先生 | 令和4年10月30日 | ご逝去（4回生） |
| 正会員 | 倉光正春 先生 | 令和4年　4月 | ご逝去（4回生） |
| 正会員 | 溝口幹郎 先生 | 令和5年　3月27日 | ご逝去（6回生） |
| 正会員 | 米田利弘 先生 | 令和4年12月24日 | ご逝去（8回生） |
| 正会員 | 小山祐之介 先生 | 令和4年　8月16日 | ご逝去（9回生） |
| 正会員 | 中山義也 先生 | 令和5年　1月15日 | ご逝去（9回生） |
| 正会員 | 高橋和範 先生 | 令和5年　3月15日 | ご逝去（9回生） |
| 特別会員 | 永山在明 先生 | 令和4年　5月31日 | ご逝去 |
| 特別会員 | 岡崎正敏 先生 | 令和4年12月21日 | ご逝去 |

# 永山 在明 先生を偲んで

原　賀　勇　壮（16回生）

昨年末、恩師の永山在明先生が亡くなられた事を奥様からの喪中はがきで知る事となりました。大学院時代からの大恩をいただいておきながら、大変な不義理をしてしまいました。ここに永山先生を偲び、いただいた御恩に僅かでも報いたいと思い追悼文を記します。

永山先生は九州大学医学部をご卒業後、米国留学を経て、佐賀医科大学の微生物学の立ち上げにも尽力され初代教授を務められた後、1989年から福岡大学医学部微生物・免疫学教室に教授として赴任されました。

福岡大学では、岩崎昭憲先生（現福岡大学総病院長）の研究や、多くの医学部同窓会関連の大学院生の研究指導をされています。クラミジアの研究に関しては、泌尿器科や整形外科から納富貴先生、岡留綾先生、花田弘文先生、MRSAの研究に関しては、形成外科から私：原賀勇壮がご指導をいただきました。

私が院生としてお世話になった1997-99年度は、順天堂大学のグループがLancet誌に世界で初めてのバンコマイシン低レベル耐性菌の出現を報告した頃でした。永山先生、野村秀一先生（現長崎国際大学健康管理学部長）のご指導を受け、当院でもまさに熱傷患者さんの治療中に耐性獲得の過程が確認されましたので、Lancetに投稿したところ、その2週間前にNew England Journal of Medicine（NEJM）に似たようなタイトル・内容の論文が投稿された事を理由にrejectとなりました。しかし、NEJMの先行論文の結論は、われわれと正反対の主張でした。作戦会議で「戦おう、我々は何も間違っていない」とのご英断をいただけた時、世界一カッコ良い‼と感激しました。ご自身も自ら実験室で手を動かされての追加実験までいただき、NEJMに投稿、accept、publishに繋げる事が出来ました。

当時、NEJMへのpublishは福岡大医学部始まって以来の出来事でした。朔啓二郎先生（現：福岡大学長）にご報告に行った際、「感謝せんといかん、これは永山先生に感謝せんといかん」とともに喜んでいただき、本当にありがたい経験をさせてもらえたのだと分かりました。

その後、今に至るまで、永山先生に頂いたこの「思い」を少しでも、一人でも多くの周囲の方々に伝えたい、渡したいと思っています。臨床に役立つ研究をする事、目の前に見えない真実を見出す事。思うようにならない事だらけですが、あの頃の永山先生に追いつけるように努力を続け、少しでも御恩に報いたいと思っています。

# 医局長・医長名簿

（○内の数字は福大医学部卒業回）

令和５年４月現在

| | 医局長 | 病棟医長 | 外来医長 |
|---|---|---|---|
| **[福岡大学病院]** | | | |
| 腫瘍・血液・感染症内科 | 佐々木 秀法 | 中島 勇太 ㉛ | 茂木 愛 ㉔ |
| 内分泌・糖尿病内科 | 髙士 祐一 | 牟田 芳実 ㉞ | 横溝 久 |
| 循環器内科 | 杉原 充 ㉔ | 小牧 智 ㉙ | 加藤 悠太 ㉝ |
| 消化器内科 | 高田 和英 ㉕ | 福永 篤志 ㉚ | 久能 宣昭 ㉜ |
| 呼吸器内科 | 海老 規之 | 濵田 直樹 | 井上 博之 |
| 腎臓・膠原病内科 | 伊藤 建二 ㉕ | 冷牟田 浩人 | 多田 和弘 |
| 血液浄化療法センター | | 安野 哲彦 ㉔ | |
| 脳神経内科 | 藤岡 伸助 ㉖ | 三嶋 崇靖 ㉛ | 合馬 慎二 ㉓ |
| 精神神経科 | 飯田 仁志 ㉜ | 畑中 聡仁 | 原田 康平 |
| 〃（ディケア） | | | 田口 公之 |
| 小児科 | 瀬戸上 貴資 ㉖ | 久保田 慧 ㉟ | 伊東 和俊 ㉚ |
| 消化器外科 | 梶原 正俊 | 内藤 滋俊 | 中島 亮 |
| 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科 | 宮原 聡 | 徳石 恵太 | 中島 裕康 |
| 整形外科 | 田中 潤 | 瀬尾 哉 ㉛ | 松永 大樹 ㉝ |
| 形成外科 | 小柳 俊彰 | 前山 徹 | 立道 早佳 |
| 脳神経外科 | 小林 広昌 ㉜ | 河野 大 ㊱ | 榎本 年孝 ㉝ |
| 心臓血管外科 | 林田 好生 ⑳ | 寺谷 裕充 ㉛ | 古井 雅人 |
| 皮膚科 | 清水 裕毅 ㊱ | 内藤 玲子 | 佐藤 絵美 ㉚ |
| 腎泌尿器外科 | 松﨑 洋吏 ㉗ | 郡家 直敬 | 岡部 雄 |
| 産婦人科 | 倉員 正光 | 井槌 大介（産科） | 清島 千尋（産科） |
| 〃 | | 吉川 賢一 ㊱（婦人科） | 清島 千尋（婦人科） |
| 眼科 | 原田 一宏 | 上野 智弘 ㉞ | 川村 朋子 |
| 耳鼻咽喉科 | 妻鳥 敬一郎 ㉜ | 打田 義則 ㉞ | 前原 宏基 ㊱ |
| 放射線科 | 高山 幸久 | 赤井 智春 ㉗ | 肥田 浩亮 |
| 麻酔科 | 三股 亮介 ㉜ | 平井 規雅 | 柴田 志保 ㉖ |
| 歯科口腔外科 | 瀬戸 美夏 | 吉野 綾 | 喜多 涼介 |
| 病理部 | 上杉 憲子 | | |
| 臨床検査部・輸血部 | 髙田 耕平 | | |
| 救命救急センター | 仲村 佳彦 ㉗ | 森本 紳一 ㉟ | |
| 総合周産期母子医療センター | | 川野 裕康 ㉟（新生児部門） | |
| 〃 | | 小幡 聡（小児外来） | |
| 総合診療部 | 坂本 篤彦 | 鈴山 裕貴 ㉝ | 野下 育真 |
| **[福岡大学筑紫病院]** | | | |
| 筑紫病院（総医局長） | 井上 律郎 ㉙ | (脳神経外科) | |
| 循環器内科 | 池 周而 ㉔ | 高宮 陽介 ㉖ | 松岡 優太 ㉟ |
| 内分泌・糖尿病内科 | 阿部 一朗 | 工藤 忠睦 ㉓ | 小林 邦久 |
| 呼吸器内科 | 串間 尚子 | 木下 義晃 | 吉田 祐士 ㉛ |
| 消化器内科 | 高津 典孝 ㉘ | 武田 輝之 ㉛ | 八坂 達尚 ㉜ |
| 脳神経内科 | 津川 潤 | 津川 潤 | 津川 潤 |
| 小児科 | 平井 貴彦 ㉟ | 藤井 裕子 | 塩手 仁也 ㊱ |
| 外科 | 宮坂 義浩 | 柴田 亮輔 ㉖ | 東 大二郎 ⑮ |
| 呼吸器・乳腺外科 | 吉田 康浩 ㉔ | 上原 美由紀 | 吉田 康浩 ㉔ |
| 整形外科 | 野村 智洋 ㉗ | 小阪 英智 ㉞ | 蓑川 創 ㉚ |
| 脳神経外科 | 井上 律郎 ㉙ | 坂本 王哉 ㉘ | 新居 浩平 ㉔ |
| 泌尿器科 | 宮島 茂郎 ㉒ | 宮島 茂郎 ㉒ | 王丸 泰成 ㉛ |
| 眼科 | 森 雄二郎 | 森 雄二郎 | 松本 拓 ㉜ |
| 耳鼻いんこう科 | 佐藤 晋 ㉚ | 佐藤 晋 ㉚ | 木庭 忠士 |
| 放射線科 | 山本 良太郎 ㉒ | | |
| 救急・総合診療科 | 松尾 邦浩 ⑧ | | |
| 麻酔科 | 若崎 るみ枝 | | |
| 病理部 | 原岡 誠司 | | |

## 教育職員人事（講師以上）

（○内の数字は福大医学部卒業回）［令和 3.10.2 ～令和 4.4.1］

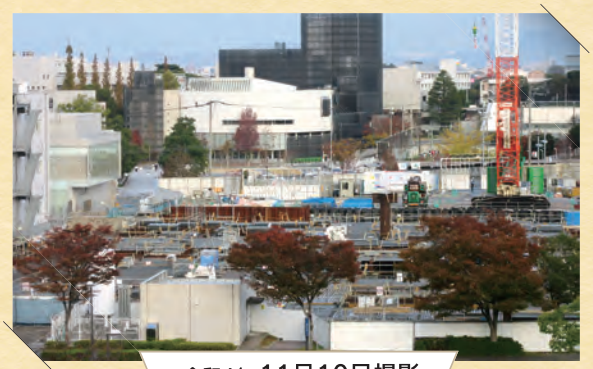
| 区分 | 所属 | 資格 | 氏名 | 発令日 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 退職 | 産科婦人科学 | 教授 | 宮本新吾 | 5.3.31 | 定年退職 |
| | 臨床医学研究センター | 教授 | 志村英生 | 5.3.31 | 定年退職 |
| | 腎泌尿器外科学 | 准教授 | 松岡弘文 | 5.3.31 | 定年退職 |
| | 輸血部 | 准教授 | 熊川みどり | 5.3.31 | |
| | 消化器内科学 | 講師（4-7） | 石橋英樹 ㉓ | 5.3.31 | |
| | 整形外科学 | 講師（4-7） | 村岡邦秀 ㉙ | 5.3.31 | |
| | 筑紫循環器内科 | 講師（4-7） | 衛藤聡 ㉑ | 5.3.31 | |
| | 筑紫外科 | 講師（4-7） | 薦野晃 ㉚ | 5.3.31 | |
| 採用 | 脳神経内科学 | 講師（4-7） | 栗原可南子 | 5.4.1 | |
| | 消化器外科 | 講師（4-7） | 愛洲尚哉 | 5.4.1 | |
| | 呼吸器･乳腺内分泌･小児外科 | 講師（4-7） | 増田佳子 | 5.4.1 | |
| 昇格 | 生命医療倫理学 | 教授 | 今泉聡 ㉕ | 5.4.1 | |
| | 産科婦人科学 | 教授 | 四元房典 | 5.4.1 | |
| | 医療情報部 | 教授 | 吉田陽一郎 | 5.4.1 | |
| | 放射線医学 | 准教授 | 高山幸久 | 5.4.1 | |
| | 解剖学 | 准教授 | 貴田浩志 | 5.4.1 | |
| | 消化器外科 | 准教授 | 梶原正俊 | 5.4.1 | |
| | 脳神経内科 | 准教授 | 三嶋崇靖 ㉛ | 5.4.1 | |
| | 呼吸器･乳腺内分泌･小児外科 | 准教授 | 早稲田龍一 | 5.4.1 | |
| | 臨床検査部・輸血部 | 准教授 | 森戸夏美 ⑱ | 5.4.1 | |
| | 医学教育推進講座 | 講師 | 武岡宏明 ㉕ | 5.4.1 | |
| | 法医学 | 講師 | 髙山みお | 5.4.1 | |
| | 病理学 | 講師 | 青木光希子 | 5.4.1 | |
| | 内視鏡部 | 講師 | 石田祐介 | 5.4.1 | |
| | 消化器内科 | 講師 | 芦塚伸也 | 5.4.1 | |
| | 筑紫消化器内科 | 講師 | 小野陽一郎 ㉖ | 5.4.1 | |
| | 筑紫内視鏡部 | 講師 | 金光高雄 | 5.4.1 | |
| | 精神神経科 | 講師（4-7） | 飯田仁志 | 5.4.1 | |
| | 筑紫脳神経外科 | 講師（4-7） | 竹下翔 ㊱ | 5.4.1 | |
| | 筑紫炎症性腸疾患センター | 講師（4-7） | 髙津典孝 | 5.4.1 | |

## 編集後記

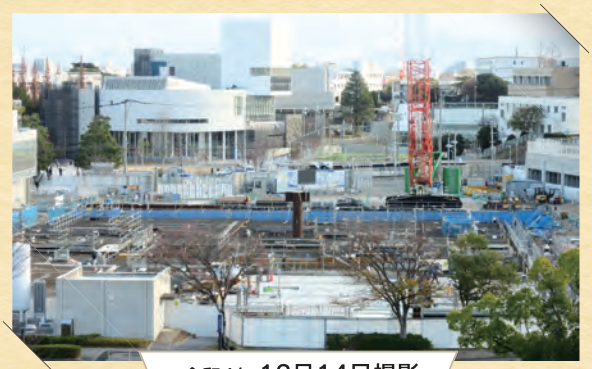
創立 50 周年を迎え、福岡大学医学部は新たな道を歩み始めています。2023 年 12 月には福岡大学病院新本館が竣工し、2024 年度の開院を目指して準備が進められています。少子化が進む中、選んでもらえる医学部になるよう生き残りをかけて改革を進めていかなければなりません。夢を見るだけではなく、こうなって欲しいというパッションを持つことが大切だと考えています。会長挨拶では、教育に重点をおいた取り組みや今後の構想が述べられていましたが、変革の波を肌で感じています。次の時代を担う人材育成は、急務の課題です。層を厚くすることで、切磋琢磨が生まれ医学部全体の発展につながると確信しています。優れた人材が福岡大学に多く残り、そして集まってくる環境をさらに整備していかなければなりません。新たに就任された教授の先生方、そして新講座の皆様のお力を得ながら福岡大学医学部が次の 50 年に向けて飛躍することを願っています。引き続き、会員の皆様の温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

烏帽子会
広報担当理事　川浪　大治（21 回生）

# 「福岡大学病院新本館（仮称）」
# 2023年12月竣工予定



令和4年 11月10日撮影



令和4年 12月14日撮影

令和5年 1月10日撮影

令和5年 2月10日撮影

令和5年 3月10日撮影

令和5年 4月15日撮影

医学部新館 5階から撮影


**烏帽子会会報第74号**

発行日　2023年6月1日
発行人　小玉　正太
編集人　小玉　正太

発行所　〒814-0180　福岡市城南区七隈7-45-1
福岡大学医学部同窓会
電話：092-865-6353（直通）
092-801-1011（代表）　内線［3032］
FAX：092-865-9484
E-mail: maileboshi@gmail.com

印刷所　ロータリー印刷株式会社
福岡市中央区港2-8-9
電話：092-711-7741
FAX：092-711-7901